

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0370900235		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名			
所在地	岩手県一関市滝沢字寺下2番地1 (電 話) 0191-23-0478		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3-19-1		
訪問調査日	平成19年11月6日	評価確定日	1月21日

【情報提供票より】(19年 10月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成11年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7 人、非常勤 4 人、常勤換算 8 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(10月 1日現在)

	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	- 名
年齢	平均 86.1 歳	最低 78 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	昭和病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は30年の認知症介護の経験もあり早くからスウェーデンやデンマークの福祉の先進地に視察に行き、個別ケアの重要性を感じていた。しっかりとした理念の中で介護1から5までの利用者がその方らしく役割を持ちながら穏やかな生活を過ごされており、地域からの協力体制としてグループホームはもちろん関連施設の特別養護老人ホーム、デイサービス、高齢者福祉センターが一体となり地域との密接な関係を築かれ、防災対策として火災通報が地域の方に通報され、そこからまた連絡が広がるよう地域との連絡網を持ち、地域を巻き込んだ防災訓練がなされていた。またターミナルケアも実践されていた。
--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	指摘事項は適切に改善されていた。その中で家族会は家族の要望がなく、出来ていない。同じ法人の中でも1箇所は出来ているが、他2箇所は出来ていない。アンケートなどの意向調査でも回収率が低く、遠くに暮らしていることや、体調の悪い介護者、身元引受人が姪であったりと事情があり、グループホームでも苦慮されているようで、今後も家族への働きかけを必要としている。小学校の運動会や、学習発表会、利用者の縫った雑巾の寄贈、中学校から窓拭きボランティアの訪問等の交流もあり、地域との交流も広がりがより期待できる状況となっていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	全職員で自己評価を行い、評価を日々のケアの振り返りととらえ、常に見直しや改善に取り組み、より良い介護ができるよう真摯に取り組まれていた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では主にグループホームを理解していただくことから始まり、近況報告がなされている。特に活発な意見は出ていないが、委員の中の民生委員の方に取り計らっていただき回覧板を回していただけるようになり、地域の行事がよく分かるようになり、地域の清掃活動に参加したり、地域との繋がりが、より活発になっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、家族には予定表や利用者の状況を知らせている。アンケートなどを利用して意見や希望が取り入れられるよう働きかけてはいるが、遠くに暮らしていたり、また子供がいなくて姪が身寄りとなっていたりとそれぞれ抱えている問題があり、疎遠となっている状況も見られホームとして苦慮している。今後も働き掛けていく必要を感じている。
	日常生活における地域との連携[関連事項:外部3]
重点項目④	地域の小中学校での運動会や学習発表会に出かけたり、中学校からはボランティアで窓ふきに来ていただいたり、また社会福祉協議会より月1, 2回の訪問がある。近隣のお寺でのお参りに参加し、車いすの利用者は近所の方が本堂まで持ち上げて下さったり、福祉用具の会社主催のニギニギ体操に参加されるなど、積極的に外に出かけ、また地区の方々も自然な形で協力して頂いている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業者独自の理念を作り上げている。	早くから福祉の先進地に視察に行かれ、個別ケアの重要性や地域との交流を大切にした運営がなされている。地域を巻き込んだ防災体制や、利用者の外出希望には出来るだけ対応していくという、しっかりした理念のもとに介護1から5までの利用者が自然な形で生活されていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の能力により出来ることを大切にした援助がなされていた。また利用者個々を大切にした個別ケアがなされており、年度ごとに目標を設定し、今年度はマニュアルの見直し、外部評価への取組、地域との連携、センター方式の導入についての4つの取り組みチームがあり、それぞれに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	よく買い物に出かけ地元商店からの理解もいただいている。地区の会費を払い、班に加入し清掃活動にも体調のよい利用者と職員で参加している。小中学校との交流や近隣のお寺の行事に出かけたり自然な形で、交流の輪が広がり受け入れられていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は県のグループホーム協会の会長も兼務され、早くから海外の福祉先進地に学び、個別ケアや地域との連携を大切に介護に取り組まれている。また外部評価を理解し、現状に満足されることなく更なる発展のために、外部評価での指摘事項も自分たちの介護の見直しの機会と捉え、より良い介護ができるよう真摯に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の調査で回覧板を廻してもらっては、とのアドバイスにより運営推進会議で話し合い、推進委員の民生委員が快く協力してくれ、現在、会費を払い地区の一員となった。今後も地区の行事に出来るだけ参加していきたいと話している。運営推進会議は近況報告が主となり、あまり活発な意見は出ていない現状である。	○	市の指導による運営推進会議のメンバーが構成員となっているが、介護経験者など介護に深く理解や関心のあるメンバー等を加えることにより、福祉関係者とも違う視点での活発な意見が聞かれるのではないかとと思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	一関地区広域行政組合介護保険課職員が運営推進会議の構成員となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、行事予定、利用者の様子や金銭出納を報告している。職員の異動はここ1、2年はない。また併設施設との交流もあり、他の利用者や職員とも交流がなされ、馴染みの関係が出来ており、職員の異動があっても大きな負担にならないよう配慮されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人では3か所のグループホームを運営しているが、家族会のあるところと、家族会がないところがあり、つくしの里では家族会はない。家族が遠方に暮らしていたり、親族が姪であつたり何かしらの事情によりアンケートなどの働きかけにも協力的とはいえない状況により職員も苦慮されていた。これから働きかけを継続していただきたいと思う。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成11年の開所以来の管理者、主任、職員数名が残っている。ここ1、2年職員の異動はなく、デイサービスなど、併設している顔なじみの職員やグループホームに、出向いている職員を異動することによりダメージが最小限になるように配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をはじめ、フォローアップ研修、デンマークやドイツへの海外の福祉先進地研修など、充実した研修内容であり、職員からも「よく研修に出してもらっています。」と満足の声がかれた。また一年間の目標を作り各グループがマニュアル、地域交流、外部評価、センター方式などチームを作り取り組むこともよい学習になることと思う。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人では3か所のグループホームを運営し、それぞれの特徴ある運営がなされ、親密に交流も持たれている。また、他に県南ブロックでは年に4、5回の交流が出来ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者やご家族が、事前に何度か見学に来られ、入居を決めている。また、併設施設の高齢者生活福祉センターから2名の入居があったが、普段から交流もあり、スムーズに入所されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材を買いに行き、利用者が重い袋を当然のように嬉しそうに下げ帰ってこられた。また買い物が大変になっている利用者はモヤシの下ごしらえをしたり、調理する職員のそばで座って過ごされていた。自然な形で利用者が主体的に生活されていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物などの希望には出来ることはその日に対応している。お墓参りは家族と相談し、職員が対応したこともある。帰宅願望には、職員を息子と思い込んでいる利用者もあるが、外に出て行かれた利用者は、頃合いを見て迎えに行く等、その利用者に合わせて援助がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、担当していたケアマネ等から情報を得て、計画作成し、ケアカンファレンス等で各スタッフからの意見や気がついたことを話し合いプランに反映させている。また、利用者の意向は、日々の生活の中から聞くようにしている。	○	プランを見せていただいた中で、入れ歯を外したがる利用者があった。入れ歯の不具合があったり、口の中に問題がある場合も考えられるので、訪問歯科診療などを利用し、口腔ケアや嚥下マッサージの指導により、嚥下機能の維持・改善も図ることも大切と思われるので、今後の対応等に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで利用者の状況を話し合い、変化のある利用者のプランは随時見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスに出かけ、気分転換を図る利用者や、高齢者生活福祉センターとの普段からの交流により、スムーズにグループホームの利用に移行した方々等、併設している各事業者の連携により多機能性のある一連の援助が出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している特別養護老人ホームの嘱託医の回診時に見てもらうこともあるが、本人や家族と相談し個々のかかりつけ医に受診している。多い月は20回ほどの通院もあり、家族が通院に対応しているのは一家族、他はホームの職員が対応している。病院から何時ごろ受診時間になるか声をかけていただくので助かっている。特に大きな負担とは思っていない。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一年前から医師より終末期の話がされ、今年五月に終末を迎えられた。特別な治療もなく静かに息を引き取られた。その時の利用者の病状により痛みや特別な治療がなく、終末を迎えられるときにグループホームでのターミナルケアが出来るのではないのでしょうか？特別養護老人ホームやデイサービスでの機械浴も利用でき、嘱託医の協力や看護師も配置により介護1から介護5までの利用者が安心して生活していた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の同意書や写真及び氏名の使用(掲載)にかかわる同意書により、詳しく利用目的や使用条件が記載された内容の同意書になっていました。また排泄介助などの声掛けはほとんど聞こえてこない。または気にならないように配慮されていました。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日のペースを大切にしよう心がけています。朝起きたくないときには時間を見計らい声掛けをする。食事にかかる時間もその方のペースで行われ、ゆっくりと職員が介助している姿や、また買い物の希望には出来るだけその日に対応するなど、利用者の希望を優先した支援となっていました。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しから準備、片付けなど職員と利用者が一緒になり行われていました。魚より肉を好む利用者にはミートボールなど代替えが用意され、またメニューを利用者に選択していただけるよう料理の本などを活用し、メニューに広がりを持たれるよう工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい利用者など希望や体調を見ながら対応している。車いすの利用者は二人で介助しているが、併設施設での機械浴も対応できるとのことで、重度化しても安心して入浴ができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の買い出しから、当然のように両手に荷物を提げて楽しそうに帰ってくる姿や、裁縫を仕事にされていた利用者は手芸用品と一緒に買ってこられた様子で、廊下やお部屋にも丁寧な作品が飾られていました。またおしゃれな利用者はアクセサリーを買いに行くこともあり、利用者個々の得意とするところや、役割を持った生活が自然にできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前、午後買い物に出かける利用者や、一人でも併設施設内の庭など自由に出ていかれても大丈夫な利用者もいる。併設施設に出かけ気分転換をしてこられたり、ドライブや地域の行事のあるときには参加するようにしている。また地域や商店でも顔見知りになり、協力や声掛けをしていただけるようになった。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	被害妄想のある利用者は自分の部屋に外から鍵が設置され、自分が部屋にいないときにも安心できるよう支援されていました。玄関は日中はセンサーで出入りを把握し、夜間は8時に鍵をかけ朝7時に開けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は2ヶ月に1回実施されている。9月の第1日曜日に消防車3、4台で職員の放水や、地域の方々も参加され大掛かりに行われた。火災通報装置が地域の方々の家にも設置されそこから他に連絡が広がるよう、連絡網が出来ている。利用者は避難訓練にも慣れ、特に驚いたり不穩になる事はない。		他のグループホームだけではなく、福祉施設でもぜひ参考にしたい地域を巻き込んだ取り組みだと感心しました。このような取り組みを紹介する機会があればいいと思った。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一日1,000から1,500ml摂取していただけるよう心がけている。水分を摂りたがらない利用者には好きな物で摂取していただけるよう努力している。管理栄養士により年数回メニューを見てもらいアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは三面が窓であり、明るく開放的な印象を受けた。台所も広く食器棚により家庭的な雰囲気がある。また畳に炬燵があり座イスが用意され、利用者が長い時間そこで過ごせるよう工夫ができていた。玄関や共有空間には色彩豊かに利用者とともに作られたちぎり絵や作品が温かい雰囲気で飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒とベットは施設で設置したものであるが、なかなか家族の協力が難しいことも考慮すれば、筆筒やベットを設置していることで、その利用者らしい部屋となっているように思える。必要な家具の持ち込みや、好みの暖簾を入り口にかざり、好みの装飾により、利用者の個性のある部屋となっていた。		他のグループホームでは職員が働きかけても家族からの協力が得られないことなどにより、簡単な衣装ケースを利用されている利用者もあり、落ち着いた雰囲気となっているのか疑問に思える時もあるが、家具が設置されていても工夫次第で個性的な利用者らしい部屋になるのだと改めて感心した。